

会 議 録

1 会議名

第1回上越市総合計画審議会

2 議題

(1) 審議会の運営等について

① 審議会運営に関する確認事項（案）

② 上越市総合計画審議会 開催計画（案）

(2) 上越市の現状と課題について

① 上越市の現状と今後の課題を踏まえたまちづくりの方向性（案）について

② 「市民の声アンケート」の結果について

(3) 意見交換

3 開催日時

平成26年4月15日（火）午前10時から正午

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：濱祐子、武田勝利、佐藤芳徳、志村喬、田村圭子、得丸定子、平澤則子、渡邊隆、蘆屋秀幸、菅文男、鈴木興次、渡邊好昭、秋山三枝子、荒井隆、市川裕光、市橋定吉、大嶋慶子、荻谷賢一、田中昭平、田中弘邦、中條美奈子、吉村久子、岩崎康文、上野弘、上原みゆき、御所窪賢一、松縄武彦、松本美鈴

・事務局：川上企画政策部長、南企画政策課長、大島副課長、青山係長、石黒係長

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

委員を代表して濱祐子委員に委嘱状を交付

(3) 市長あいさつ

【村山秀幸市長】

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。

総合計画は行政の最上位計画であり、この計画をもってまちの方向性を決め、市民の皆さんと進んでいくことで豊かさを実感でき、すこやかなまちにつながっていく。

現在の総合計画は26年度をもって終了するため、25年度から職員全員で現計画の検証をしてきた。また、市民へのアンケートを行うなど、第5次総合計画が我々に何を示してくれたのかを考えながら整理をしてきたところであり、それをベースにしながら次のまちづくりの方向性を作りたいと思っており、委員の皆さんに検討をお願いするところである。

全国最多の14市町村の合併は、市民の皆さんにとって大きな選択の一つであった。豊かさを実感でき、ここに住みたい、ここに住んでいてよかったということを感じられるようなまちにしなければならない。来年の1月1日には、合併して10年が経つが、今後合併したという選択が間違っていなかったと思えるようなまちづくりをしていかなければならない。

厳しい財政や行政改革の問題など、行政に問われる問題も少なくない。社会的な環境の中で少子化、高齢化が進み、行政サービスは量ではなく質が問われている。量はなくとも質を高め、一人ひとりの視点・状況にあったものを作っていく必要がある。

その中で、職員の人材育成と数は適正か、合併後増えた施設は無駄なく効果的に使われているかということも考えなければならない。

また、介護保険の計画も26年度に作らなければならない。

そういうものを全て整理すると財政計画に行きつくが、財政計画を総合計画の中でも加味していかなければならない。行政内部でしっかりと積み上げてくる財政計画が下支えとなって総合計画が成り立つものであることを認識していただき、計画づくりにご尽力いただきたい。

上越市は課題ばかりでなく、豊かな自然や面々と流れてきた大きな歴史と香り高い文化を持っており、今後を受け継ぐ若い世代にとってはそれらをいかしたまちづくりが重要である。

エネルギーの問題が議論されており、火力発電所や新しいエネルギーであるメタ

ンハイドレートの可能性なども、まちの力、地域の力として計画の中に位置付けてもらうことも可能である。

北陸新幹線の開業と上信越自動車道の4車線化後は、高速交通網の結節点になることをいかしたまちづくりが必要である。

上越市の特色は多岐に渡り、一つの方向性だけではつかみきれないが、その分可能性が高いといえる。可能性を計画に組み込んでいただきたい。ここにいてよかった、ここに住みたい、このまちに帰りたいという選ばれるまちづくりを計画に取り入れたい。

新しいまちづくりの大きな方向性がこの審議会で決まるため、委員の皆さんにはよろしくお願いいたします。そして引き受けていただき感謝を申し上げたい。

(4) 委員紹介

資料1 委員名簿の順に委員を紹介

(5) 会長・副会長の選任

会長に佐藤芳徳委員、副会長に濱祐子委員を選任。会長、副会長あいさつ。

【佐藤会長】

上越市に限らず、地方自治体の総合計画は、国の経済や資源エネルギー政策、社会の風潮、地域の意向、上位法の改正に左右されるため、社会の変化に対するきめ細かな対応が要求される。北陸新幹線の開業、高田開府400年など転換期を迎えていることを踏まえ、上越市の強みや特色を活かし、住みよく活気にあふれ、訪れてみたい、住んでみたいと思われるまちづくりが求められている。審議会では活発な審議をお願いしたい。

【濱副会長】

安心で安全、住みよいまちづくりのために委員の皆様と共に考えていきたいのでよろしくお願いいたします。

(6) 諮問

市長から審議会に諮問

(7) 議事

○ 議題(1) 審議会の運営等について

【事務局（大島副課長）】

資料3、資料4により説明。

【全委員】

了解。

- 議題(2) 上越市の現状と課題 ①上越市の現状と今後の課題を踏まえたまちづくりの方向性（案）について

【事務局(石黒係長)】

資料5-1、5-2により概要説明。

【渡邊隆委員】

最大の課題は人口減少であり、人口減少が行財政を圧迫していくことが予想される。審議会としては人口減少を前提として総合計画を策定していくようだが、総合計画の中では、人口減少を抑制するための積極的な対策を盛り込むつもりはないのか。

また、具体的な対策は、各分野の個別の取組に委ねるという考え方なのか。

【事務局（南企画政策課長）】

総合計画は市政全般の政策・施策の方向性を定める計画であるので、人口減少を前提とした政策・施策展開の方向性を示すことが役割となる。

各分野の個別具体の取組や事業は、総合計画の考え方を受けて展開されるという関係性である。

【田村圭子委員】

行政サービスの効率性の向上を前提としつつ、現行のサービス水準についても検討が必要である。

単なるサービス縮小ではなく、お金をかけなくても必要なサービス水準を確保・維持する観点と、選ばれるまち、住み続けるまちであるため、価値ある投資先を見つけるための算段を計画に入れる必要がある。

説明にあった4つの地域区分（中心市街地、新興住宅地、平野部、中山間部）の分析を詳しく行い、その地域において何が減少し、維持され、また伸びる可能性があるのかを地区ごとにまとめていくべきである。

防災の観点で参加させていただいているが、防災面からは、たくさんの代替できる拠点があることは強みである。

- 議題(2)上越市の現状と課題 ②「市民の声アンケート」の結果について

【事務局（青山係長）】

資料6により概要説明。

【秋山三枝子委員】

市民が積極的に地域のまちづくり、自治を推進するという意識が薄れてきているように感じる。地域自治区や自治基本条例を掲げていても形骸化しているという問題意識を持っており、アンケートなどの数値からもわかる。

人が地域に関わっていくという仕組みはできたが、人を育てる仕組みが弱いので総合計画の方向性に位置付けてほしい。

【得丸定子委員】

アンケートを見ると学びや教育に対する市民の意識と重要性が低いことが気がかりであり、人づくりに力を入れてほしい。教育面に対する市民の意識が低いからこそ、教育面の取組を強化すべきと考える。

【志村喬委員】

人口問題がカギとなる。市民が住みたいと考える地域に変化が生じているように感じられる。アンケートでは、中心市街地に住みたい傾向も垣間見られるのでよく分析してほしい。まちづくり市民意見交換会でもなぜその地域に住みたいと思うのか、理由をよく聞いてほしい。

【上野弘委員】

市の内側からの視点が強いと感じるので、外からの目線を取り入れてほしい。

他のまちの人から選ばれる、今住んでいる人が住み続ける、他から移り住みたい人に選ばれるという視点が必要。

【岩崎康文委員】

アンケートでは市民の8割の人が住みたいとあるが、人口は減少している。

単に住み慣れているという理由だけではなく、教育や雇用の場など、住みたいと感じられる積極的な要素が必要であり、審議会で考えていかなければならない。

【田中昭平委員】

815の町内会があるが、入学児童がない町内会もある。高齢化が進むことを前提としたまちづくりを展開する視点が重要である。会合を開いても参加者は高齢者が多く、地域に参画できない高齢者も増えている。高齢化により、地域活動が停滞する現状もあるので、高齢者が活動に参加できるような視点を持つことも大切。

○ 議題(3) 意見交換

【武田勝利委員】

農業従事者が減少していることは否めないが、中山間地域では、農業で生活が成り立たないから止めざるを得ないという現実があり、そのことが人口減少、高齢化の原因となっている。

【松本美鈴委員】

中山間地域では、お年寄りは、本当は生まれ育った所に住んでいたい、体調や雪などの不安で離れざるを得ないというのが現状である。中山間地域は近所の助け合いが成り立っており、魅力的な地域である。市街地に移り住んでもお年寄りには心のよりどころがない。

減反政策等により若者が出て行ってしまったことを真剣に考えるべきである。中山間地域に住む人がいなくなるということは、森林の維持管理する人がいなくなり、耕作放棄地が増えるということ。中山間地域の役割は中心部の人にとって他人事ではない。

【中條美奈子委員】

上越市の子育てしやすさはブランド化しつつあり、それを打ち出して選ばれるまちにしてほしい。

アンケートではこれから子育てする20代と30代の満足度が低く、子育てを終えた40代と50代で満足度が高いことが気になる。いつの時代、どの世代にとっても子育てしやすいまちであり続けることが大切である。

【蘆屋秀幸委員】

選ばれるまち、住み続けたいまちということであるが、なぜ市から出て行ってしまうのか、外から入ってこないのか、外から来るにはどうするのか、留めるためにはどうするのかという点がヒントである。企業も含め他から選ばれるための施策が必要。

【大嶋慶子委員】

子どもたちのためにも、学びや教育に対する意識が低いのが気がかり。意識を高めていく必要がある。

たとえば、企業誘致を進めるなど、ここで育った人が進学や就職で市を離れても戻ってこられる仕組みが必要である。

【得丸定子委員】

上教大の大学院には、学びのために多くの人が故郷に戻ってきているという印象を持っている。上越の子育てしやすさは定評がある。子育てしやすいというブランドは

育てて行ってほしいと思う。

付加価値を生み出すためには教育が大切である。

女性の進学に対する住民の意識が低いので目を向けていくべきである。

【松縄武彦委員】

スポーツ基本法も制定される中で、スポーツや体育、健康の視点が弱いように思える。「スポーツ・健康・体育」は福祉、教育、まちづくり、青少年育成など多様な分野に効果があるので強く打ち出してほしい。

【佐藤会長】

資料 5-1、5-2 をもとに今後事務局で原案を作っていくことをお認めいただいたということで、原案作成の段階で様々な意見をお寄せいただきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

【全委員】

了解。

(8) その他

【事務局】

今後のスケジュール等事務連絡。

(9) 閉会

【川上部長】

本日委員の皆さんから頂戴したご意見は次回の審議会の資料作成に反映させていただきます。

総合計画は、これからのまちづくりの方向性を明らかにする極めて重要な計画である。市民の皆さんから住み続けたいまち、選ばれるまちを目指して計画を作っていきたい。委員の皆さんからはそれぞれ専門的な視点から引き続きご意見をいただきたい。

9 問合せ先

企画政策部企画政策課企画政策係

TEL : 025-526-5111 (内線 1452)

E-mail : kikaku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。